

研究テーマ	夢や目標から主題を生み出し、構想を練る力を育てる美術科学習指導 ー中学2年「My ラッキー☆チャーム ～私を支えてくれるもの～」における〔共通事項〕を基にした話し合い活動の工夫を通してー
-------	--

つくば市立百合ヶ丘学園筑波西中学校 教諭 春日 葉子

## I 研究テーマについて

中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月文部科学省，以下「解説」と記す）の第2学年及び第3学年の目標と内容A表現（1）には、「第2学年及び第3学年では，第1学年における自然をはじめとする身近な事物に加え，自己の内面や社会の様相などを深く見つめ感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に発想や構想をすることをねらいとしている。」とある。

本校では，美術の学習に意欲的に取り組んでいた生徒も，学年が上がるにつれて発想や構想の段階でつまずきを見せることがある。実際に目に見えるものを表す活動から，自己の内面，感情，夢や希望といった形に表しにくいものを表現していくにつれ，自分の中にイメージを見い出せず，何をしたいのか分からなくなってしまう様子が見られる。また，単純な思いつきそのまま制作を進め，発想や構想が深まっていけないことにより，意欲の減退が起こっているようである。発想や構想でつまずいた生徒は制作にも自信がもてず，学習へのやる気のなさだけでなく，作品と自己を同一化することによって自尊感情を低くしていく傾向も見られる。

そこで，生徒が主体的に主題を生み出し，主題を基に豊かに構想を練ることができる課題が必要であり，そのための手立てとして，作品制作の初期に話し合い活動を取り入れてみたいと考える。目に見えない漠然としたものを，文字や言葉で可視化し，相手に伝え，アドバイスをもらうというやりとりの中で，表したいイメージが深まっていくのではないだろうか。その際，〔共通事項〕を基にして，形がもたらす感情を手がかりに話し合うことによって，より一層発想や構想を深めることができるのではないかと考え，本主題を設定した。

## II 研究の実際

1 題材名 My ラッキー☆チャーム ～私を支えてくれるもの～

2 題材の目標

- 鋳型による作品づくりに興味をもち，意欲的に取り組もうとする。  
(美術への関心・意欲・態度)
- 形がもたらす感情に留意して単純化や省略，強調など創造的な構成を考えながら構想を練ることができる。  
(発想や構想の能力)
- 鋳型の技法を理解し，表現意図に合うように工夫して制作することができる。  
(創造的な技能)
- 作品のよさを感じながら，創造的な表現の工夫を感じ，自分の価値意識をもって味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

(33人調べ)

項目	回答
1 モノを作るときに辛いと感じるのはどの段階ですか。	

・初期（アイデアスケッチ）	15人
・下描き	4人
・制作	9人
・鑑賞	3人
・その他	2人

本校は生徒数が少なく、その分生徒同士の結びつきが強い。本学級も、他教科の話し合い活動やグループ学習において、互いに教え合ったり、意見を交換することができる生徒が多い。美術の学習に対しても、1年生で行ったスケッチやレタリングといった、見て描く、決まりに従って描くといった題材には意欲的に取り組むことができた。半面、自分で主題を設定してつくる題材が増えるにつれ、「何も浮かばない」、「何をしたいかわからない」と、主題の設定や発想構想の段階でつまづく生徒が増えてきた。作品づくりに関する意識調査でも、初期のアイデアスケッチを辛いと感じている生徒が15人いた。理由は「アイデアが浮かばない」というものが多かった。この結果から、題材設定と発想構想の段階で学習過程を工夫することで、自分が表したいイメージとじっくり向き合い、表現できるような指導計画を立てたいと考えた。

## (2) 題材観

鋳型による低温融解金属を使ったチャームの制作である。硬い金属を溶かし、思い通りの形を作り、輝くまで磨いていく作業は、それ自体生徒の感心が高い題材である。さらに、自分の夢や目標を見つめ、それを実現するために自分を支えてくれる、勇気や力を与えてくれる抽象的な存在を形として表すことで、単純な思いつきではなく、自分の内面を見つめて主題を生み出せるようにしたい。

## (3) 指導観

進路選択を前にした中学2年生の時期に、自分の夢や目標から主題を生み出し、目に見えない漠然としたものを言葉で明確にし、相手に伝え、アドバイスをもらうというやり取りの中で、表したいイメージを深めていくことができるのではないかと考える。その際、〔共通事項〕の「形がもたらす感情」を手がかりにすることで、主題を明確にし、話し合いをスムーズにしてより一層発想や構想を深めることができるのではないかと考えた。

## 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自己を見つめて主体的に主題を生み出し、友だちの意見を参考にし、意欲的に作品に表そうとしている。	夢や目標を基に、形がもたらす感情に留意して単純化や省略、強調など創造的な構成を工夫し、心豊かな構想を練ることができる。	鋳金の技法を理解し、主題や表現意図に合うように工夫して制作することができる。	作品のよさを感じながら、創造的な表現の工夫を、自分の価値意識をもって味わうことができる。

## 5 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ③導入	・「形から受ける印象」の相違を知る ・グループワーク	・鋳型による作品作りに興味を持ち、意欲的に取り組もうとする。 関【観察】

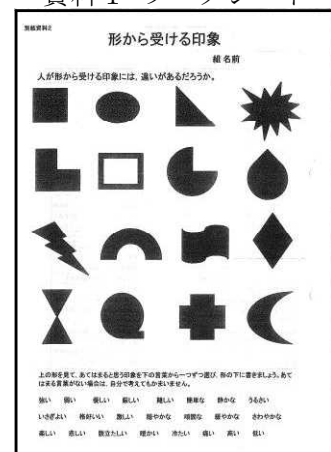
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートやグループワークから、形がもたらす感情について理解し、協力して構想を練る。【想】【観察・ワークシート】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「祈りの形」の鑑賞</li> <li>自分の夢や目標から主題を生み出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品の単純化や省略、強調など造形の工夫に気付き、自分の作品に活かすことができる。【想】【観察・ワークシート】</li> <li>自分を見つめ、夢や目標から主題を生み出すことができる。【想】【ワークシート】</li> <li>参考作品を鑑賞し、抽象彫刻の「形」がもたらす感情を話し合い、自分と友だちの考えの相違を知ることができる。【鑑】【観察】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動で構想を深め、アイデアスケッチをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友だちの作品について興味を持ち、意欲的に話し合い活動に参加することができる。【関】【観察・ワークシート】</li> <li>友だちの意見を参考に、形がもたらす感情に留意しながら構想を深め、アイデアスケッチすることができる。【想】【観察・ワークシート】</li> </ul>
第2次 ⑥制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋳型を作る</li> <li>鋳造し、脱型する</li> <li>表したいイメージをもとに研磨する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋳型による制作に興味を持ち、意欲的に制作している。【関】【観察】</li> <li>鋳型の技法を理解し、表現意図に合うように工夫して制作することができる。【想】【観察・作品】</li> </ul>
第3次 ①鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互鑑賞をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品のよさを感じながら、創造的な表現の工夫を感じ、自分の価値意識をもって味わうことができる。【鑑】【観察・ワークシート】</li> </ul>

## 6 指導の実際

### (1) 導入

形から受ける印象を言葉に表すのは難しいので、制作の前に2つの小課題を行った。まず資料1のワークシートでいくつかの形を取り上げ、その形が与える印象に言葉をあてはめていくことで、一人一人が形から受ける印象に相違があることに気付かせた。例えば右上の★の印象は、「うるさい」23人、「痛い」8人、「腹立たしい」2人、その他各1人であったり、左上の■は、「簡単な」19人、「頑固な」10人、「静かな、誠実」各2人、その他各1人と半分以上の生徒が同じような印象を受けている。一方、同じ四角でも二段目の中が抜けている□では、「弱い」5人、「簡単な、頑固な」各2人

資料1 ワークシート



以外はそれぞれ一人ずつで意見が分かれた。このように、一つの形から受ける印象は、類似しているもの、そうでないもの様々だが、単純な形ほど同じような感情を抱く傾向が強いと感じた。この活動によって、生徒たちは形にもそれがもたらす感情があることを理解することができた。

次に4人班で「難しい課題にもくじけず取り組む形」を考えるグループワークを行い、15分間で考え、発表した。資料2から、「難しい課題」を重りや黒い四角などの形で、「くじけず取り組む姿勢」を先に進む矢印で表す点で似通った表現が見られた。一方、失敗と成功を〇×で表したり、豆電球やピラミッドといった具体物で表現する班もあった。それぞれの班の発表を聞いて、生徒たちは形に共通点があることに興味を持った様子だった。

資料2 グループワークにおける形の相違

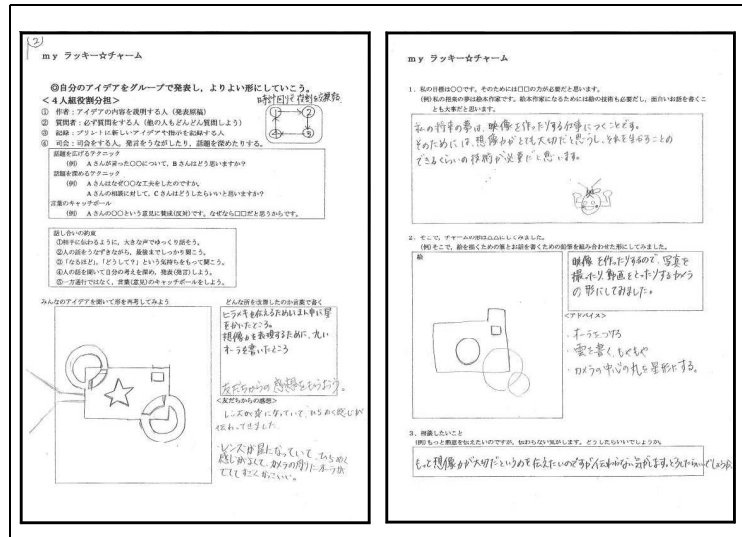
1班	分銅のような形(重り)
2班	カーブしながら右上方向に向かう矢印
3班	とげとげしい形と四角が合わさった形
4班	重りの上を矢印が飛び越えている形
5班	四角に矢印が向かい合っている
6班	星の中に〇と×が交互に並んでいる
7班	光る豆電球
8班	星を黒い雲が覆っている
9班	写実的ピラミッド

(2) アイデアスケッチ

アイデアスケッチは、話し合い活動で相手に伝えやすいように会話形式でワークシートを作成し、友だちからのアドバイス欄や相談内容、話し合いの役割分担や約束を書く欄を設けた。さらにアイデアを練り直すための場所等を設けることによって、話し合いを活発にし、さらに友だちのアドバイスによって自らの主題を深め、構想を練り直した生徒の思考の流れが分かるように工夫した。

資料3 生徒Aのワークシート

資料3の生徒Aは、「映像を作ったりする仕事につく」という主題から、想像力とそれを生かすことのできる力が重要だと感じ、映像をつくったり、写真を撮ったり、動画を撮ったりする「カメラ」の形のアイデアスケッチをした。そして、「もっと想像力が大切だということを伝えたいが、伝わらないのでどうしたらいいか」と、その方法を相談した。友だちからは「オーラをつける」、「雲を書く、もやもや」、「カメラの中心の丸(レンズ)を星形にする」といったアイデアが出され、それを基にして「ヒラメキを伝えるために真ん中に星を描いた、想像力を表現するために、丸いオーラを描いた」という改善をし、さらに友だちから「ひらめく感じが伝わった。」「レンズが星になっていて、ひらめく感じがよくて、カメラの周りにオーラが出ててすごくかっこいい。」という感想が寄せられた。



(3) 制作

### ①型を作る

アイデアスケッチをもとに、コルク板にデザインを描き、カッターで切りとる。型となる側を白ボール紙に木工用ボンドでしっかり接着する。白ボール紙の片側に注ぎ口を作り、同様に接着する。注ぎ口の接着が甘いとき金属が流れ出てくることもあるので、乾燥するまでしっかり押さえるよう指導した。



### ②金属を溶かし、流し込む

レードルに金属(すず合金)をのせ、カセットコンロで溶かす。およそ5分ほどで溶けてくる。表面が銀色から金色、赤紫色になったら十分溶けているので、表面の膜を割り箸でどかし、静かに型に流し込む。



### ③脱型し、研磨する

十分に冷めたら型をはがし、注ぎ口をペンチで切断する。その後、金工やすり、ダイヤモンドやすり、耐水ペーパー(400番～2000番)の順で研磨する。最後に布に金属みがきをつけて磨く。自分のイメージで光らせる部分と光らせない部分を工夫する生徒も見られた。多くの生徒がピカピカになるまで熱心に磨くことができた。

### (4) 鑑賞

授業内での鑑賞会では、グループごとに自分の作品について説明し、鑑賞カードに記入し合った。授業後、作品をクラスごとに廊下に並べて展示した。他学年の生徒も集まり、作者のコメントや作品を興味深そうに鑑賞する姿が見られた。



### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

授業後に以下のようなアンケートを行った。

(35人調べ)

項目	回答
1 自分のつくりたい形を考えられましたか。 ・とてもよくできた ・よくできた ・だいたいできた ・あまりできなかった ・できなかった	3人 9人 11人 8人 2人
2 うまくできたと答えた人は、その理由はなんだと思いますか(複数可)。 ・ワークシートで「形が与える印象」を描いたから ・友だちにアドバイスをもらったから ・自分の夢や必要な力を文章で書いたから ・友だちに聞いてもらうために客観的に考えたから ・先生からアドバイスをもらったから ・グループワークをしたから ・友だちのアイデアを見て真似したから ・その他	15人 15人 10人 5人 4人 3人 3人 2人
3 うまくできなかったと答えた人は、その理由はなんだと思いますか。 ・アイデアが浮かばないから ・不器用、納得いかない、発想が広がらない、夢がない	6人 各1人

上記のアンケート結果から、自分のつくりたい形を考えることができた生徒は23人となった。その理由としては、ワークシートの「形が与える印象」を行ったから・友だちにアドバイスをもらったから、が最も多く、自分の夢や必要な力を文章で書いたから、友だちに聞いてもらうために客観的に考えたから、が続く。授業の様子を見ていても、何をしているのか分からずに時間を過ごしている生徒の数は少ない印象だった。今回の取り組みで主題を生み出し、構想を練る力を育てることについて一定の成果が出たと考えられる。

#### 2 課題

一方で、アンケートに「あまりできなかった、できなかった」と答えた生徒は10人おり、クラスの中では大きな割合である。主題の「自分の夢や目標」は、必ずしも将来の目標ではなく、学校生活や学習、部活動の目標でも良いとしたが、それでも「夢がない、目標がない」という生徒に対して個別の対応や主題の見直しが必要だと感じた。

#### ※参考資料

- ・中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月） 文部科学省
- ・評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 美術】

（平成23年11月）国立教育政策研究所 教育課程センター

【生徒作品】

